

## 【地理教育プランニング実習】 火曜日 3・4 時限

教育学部第二類社会系コース B130435 渡邊亮太

### 第2章 社会科で育成する資質・能力に対応した授業づくり

#### 第2節 “事実の獲得”の過程として授業を作る

##### 1. 授業の実際

###### (1) 授業者の考え

- ・学習者は教師によって意図的に示された様々な資料から必要な情報を読み取り事実を獲得していく。
- ・事実の獲得を目指す授業づくりでは、資料に対する学習者の勝手な解釈はできる限り排除するべきである。⇒文献の読み取りを中心とする。

##### 2. 授業づくりのポイント

###### (1) 獲得させ得たい事実の抽出と構造化

###### (2) 文献資料の選定と内容の構造化

###### (3) 発問の構造化

- ・「WHY型」ではなく「HOW型」の発問

⇒多くの解釈を許容する発問ではなく、“事実の獲得”に焦点化した発問

- ・導入部分で学習者の固定観念を覆すような情報の提示
- ・展開部では文献資料を読み取らせる発問を用意
- ・終末部では、単元全体を振り返らせ、既習の概念的知識を追認

##### 3. 研究者から見た授業づくりの特徴

###### (1) 大きな特徴

- ・事実に主観的な解釈が入ってはいけないと考え、文献資料に限定する。
- ・事実的知識に含まれる4つの下位知識を関連付けている。

###### (2) 具体的な特徴

- ・知識を関連付け、構造化することで知識の羅列化を防ぐ
- ・事実の獲得に関する発問はWHYではなくHOW発問で構成されている

⇒理論的で一貫した授業づくりが行われている

###### (3) 課題

- ・HOW発問に関係する知識には説明的知識と概念的知識は含まれない
- ・教科書の記事の事項と教師が専門書等の文献から読み取ってきた事項が歴史授業における事実とされているのではないか

#### 4. メンターから見た授業づくりの特徴

##### (1) 事実の獲得における資料の選択

- ・ 絵画資料は様々な情報を提供し、探求のための共通の知識基盤となる。
- ・ 絵画資料は、歴史の学び方のスキルを身に付けられる。
- ・ 多くの生徒の好奇心を喚起し、授業を活性化させる。
- ・ 歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を身に付けられる。

##### (2) 事実関係の知識の獲得と歴史観について

- ・ 歴史的分野では、異なる価値観から多様な認識が生まれる。

⇒自分とは異なる価値観も認めるような指導の必要性

- ・ 文献資料は研究者の歴史観が反映された論文などではなく一次資料が望ましい。

#### 5. それぞれの立場から見える課題

・ 授業を事実の獲得の過程として構成する際に生徒にどのようにして説明的知識、概念的知識を形成させるか。

- ・ HOW 発問で問えるのは分析的知識までなのではないか

#### 6. 指導案作成にあたって

指導案を作成するにあたっては、生徒が事実を獲得することを促すように配慮した。具体的には、発問の際に資料を提示することによって、それを読み取ることで事実を獲得する過程が形成されるようにした。説明的知識を獲得させる際には、直接的な「なぜ」という発問ではなく、分析的知識を積み重ねることにより、生徒自身の中で説明的知識が形成されるようにする。